

目指す学校像	地域の文化を大切にし、ICT機器を有効に活用しながらともに学び、夢を実現させる学校
--------	---

重点目標	1 主体的・対話的で深い学びの充実に向けた授業の改善 2 安心・安全な学校に向けた教育支援と見守り体制の充実 3 信頼され、地域とともにある学校づくりの推進 4 学校課題研修及び職員研修を通じた教職員の資質向上
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学校運営協議会による評価					
年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和6年2月15日					
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	(現状) ○学習に関しては、元気に楽しく、積極的に授業に参加する生徒が多い。 ○令和4年度全国学力・学習状況調査では、国語・数学ともに全国、県平均正答率をそれぞれ上回っているが、令和4年度市学習状況調査では、国語・数学ともに、市平均点を下回っている。また社会についても市平均正答率(1,2年)、市平均点(3年)を下回っている。 (課題) ○「思考力・判断力・表現力」の定着に課題が見られる。学級数が少なく(通常学級各学年2学級)、外部からの刺激も少ないため、自分で考えて行動することを苦手とする傾向がある。家庭学習を含めた自主的な学習習慣を身に付けさせることが必要である。	・生徒の学力、学習状況や課題を把握し、それを踏まえた適切な指導の推進 ・学ぶ喜びを実感できる、個別最適な学びの実現	①全国学力・学習状況調査や市学習状況調査の結果を基に、市教委の学力向上カウンセリング研修を受けることにより自校の課題解決に繋げる。 ②スタディサプリやデジタル教科書等のデジタル教材を学校や家庭でも活用し、学力を向上させる。	①教育課程の編成・実施状況 ②ICTを活用した授業の推進状況 ③学力向上カウンセリング研修により、自校の課題解決に向けての各教科の授業改善等の状況 ④学校評価の関連項目の回答結果	①教育課程の編成・実施状況 ②各教科等の授業の状況 ③ICTを活用した授業の推進状況 ④学校評価の関連項目の回答結果	指導主事を招聘した教員の学力向上カウンセリング研修では、全国学力・学習状況調査や市学習状況調査の本校の教科の分析結果が明確に示され、今後の教科指導に大いに役立った。また、教職員の学校評価アンケートの「ICTを活用した授業」に関しては、肯定的回答が約70%であった。	B	学力向上カウンセリング研修は、次年度も継続して行う予定である。ICT機器の授業活用については、エバンジェリストを中心に、教科の特性を考えながら、活用方法を共有する時間を確保する。自主学习や家庭学習については、スタディサプリ等の活用を家庭にも促していく。	概ね高評価をいただいた。 学校運営協議会委員からは、「『授業が楽しい』と感じていることが素晴らしい」「確実に基礎学力が定着することを望む」「スタディサプリがより一層家庭で活用できるとよい」との意見があった。
2	(現状) ○令和4年度全国学力状況調査・令和4年度市学習状況調査の「学校に行くのが楽しいか」との質問に肯定的回答をした生徒の割合は全国、県、市平均をそれぞれすべて上回っている。 ○いじめ案件については、比較的少ない。対応の際は、該当学年を中心に組織的に迅速に対応している。 (課題) ○若手教員が比較的に多い学校である。教育活動において、教師としてのさらにきめ細かい指導力や指導技術の向上が課題となる。 ○配慮を要する生徒個々への対応が課題である。支援や相談体制をより一層確立することが重要となる。	・いじめ未対応ゼロを目指した、積極的できめ細かい生徒指導の推進 ・生徒個々へのきめ細かい支援や教育相談体制の充実	①いじめ撲滅強化月間を中心に、いじめを許さない、見過ごさない取組を積極的に行う。 ②普段より生徒一人ひとりの自己存在感・自己肯定感を高め、共感的な人間関係を構築できる教育活動を推進する。 ③いじめ対策委員会を年2回開催する。 ④スクールロイヤーによるいじめ防止等に関する特別講義を実施する。	①生徒指導の状況 ②いじめ防止対策等の取組状況 ③道徳や特別活動の授業の取組状況 ④学校評価の関連項目の回答結果	①不登校生徒への支援の状況 ②教育相談の状況 ③学校評価の関連項目の回答結果	生徒の学校評価アンケートの「いじめ対応に関する項目」では、肯定的回答が約99%、教職員の学校評価アンケートでは、100%であった。まずは普段より、生徒一人ひとりの状況を把握し、情報共有することで組織的な対応を行うことができた。また、いじめ撲滅強化月間をはじめ、生徒会生徒中心のあいさつ活動や道徳・特別活動の授業などの取組を重ねることで、生徒のいじめ防止への意識を高めることができた。更に今年度は、小学校高学年児童と一緒にスクールロイヤー特別講義を受講し、中学校入学以前から、いじめ防止への意識付けにつなげることができたと捉えている。	A	いじめに関する対応は、次年度も教職員の意識を高めながら、「報告・連絡・相談・見届け」を徹底し、迅速に、組織的に対応していく。また、生徒の自己存在感・自己肯定感を高める活動を積極的に行っていく。	概ね高評価をいただいた。 学校運営協議会委員からは、「スクールロイヤーを招聘したいいじめ防止の講義は、たいへん効果があったと思われる」との意見があった。
3	(現状) ○本校は地域の伝統校として認知されており、地域が学校にたいへん協力的である。そのため、地域と連携を図った教育活動が企画しやすい環境下にある。 (課題) ○地域との交流活動を積極的かつ計画的に行っていく。 ○自転車の乗り方のマナー指導の徹底をはじめ、学校周囲の環境に関わる安全指導が必要である。	・学校運営協議会を通じた家庭・地域との関係性の構築 ・地域との連携を踏まえた教育活動の充実	①学校運営協議会を年間3回開催する。 ②学校だよりやHP等を通し、生徒の活動の様子を家庭・地域に発信する。 ③学校行事等においては、積極的に地域に参加を呼び掛けていく。	①学校運営協議会の開催状況 ②保護者、地域との連携の状況 ③学校評価の関連項目の回答結果	①安全教育の状況 ②関連機関との連携の状況 ③小中一貫教育の取組状況 ④学校評価の関連項目の回答結果	学校運営協議会を年間3回開催することができた。また、毎月発行の学校だより等で生徒の活動について、家庭・地域に発信することができた。学校行事等の参加についても状況を見極めながら、参加範囲を広げることができた。	A	教職員の学校評価アンケートの「PTA各部・保護者との連携に関する項目」では、肯定的回答が約95%であった。次年度も学校運営協議会での意見を基に、家庭から更に地域への関係性を広げていく。	概ね高評価をいただいた。 学校運営協議会委員からは、「PTA防災フェアに参加したが、たいへん良い取組であった。地域全体で訓練をしていくことは有事の際に大いに役立つ。次年度もぜひ実施してほしい」との意見があった。
4	(現状) ○在校時間を意識し、能率良く業務を遂行する教職員が多い。 (課題) ○働き方改革をさらに推進し、教職員の負担感を減らすことが課題である。 ○ICT機器の授業活用については全教員の共通理解が必要である。 ○経験年数の少ない教員への指導法の継承が課題である。	・教職員が余裕を持ち、生徒と向き合える時間の確保 ・教職員の資質と組織力の向上	①課題研究に向けた校内研修を計画的・組織的に実施する。 ②職員会議資料のICT化や論点の明確化等による会議の短縮化を目指し、職務を効率化する。 ③教職員の資質向上に関わる校内研修を年間4回以上実施する。	①学校における働き方改革の状況 ②教職員の負担感・多忙感の把握状況 ③教職員の資質向上に関わる研修状況 ④学校評価の関連項目の回答結果	①学校における働き方改革の状況 ②教職員の負担感・多忙感の把握状況 ③教職員の資質向上に関わる研修状況 ④学校評価の関連項目の回答結果	年間を通し、時間外勤務時間が月45時間を超過する教職員の割合は少なかった。職員会議においても、資料のPDF化、企画委員会等での議題の精選により、概ね短縮化することができたが、教職員の学校評価アンケートの「時間外勤務と業務の効率化に関する項目」では、肯定的回答が約64%であった。勤務時間外の生徒指導や家庭への連絡等が要因と考えられる。 教職員の資質向上に関わる研修は年間4回実施できた。(サービス・特別支援・小中合同・学力向上カウンセリング)	B	教職員の負担感や多忙感の状況を把握し、組織対応について全体確認する時間を確保する。特に経験年数の少ない教職員を中心に様々な対応方法を詳細に継承していく。	概ね高評価をいただいた。 学校運営協議会委員からは、「教職員の平均年齢が低くなっている。経験年数の多い教職員がぜひ、支えてほしい」との意見があった。